### 令和4年度 東京都立東大和高等学校 学校経営計画

校 長 山 崎 仁

#### 1 目指す学校像

#### 【 スクールミッション 】

「積極的態度の養成」「基礎的教養の定着」「スポーツの振興」を教育目標とし、高校生としてやるべきことを力一杯頑張る生徒を育成します。「学校で学ぶ」ことを充実させて、自己実現に向けた「自ら考え、判断する力」を育てる授業実践から、自発的・積極的に社会に貢献する人間力を育成します。

### 【 教育目標 】 1 **積極的態度の養成**

生徒の個性・特性を伸長させ、自発的・積極的に行動する態度を養う。

2 基礎的教養の把握

学力の充実とともに豊かな人間性を養い、社会に貢献できる人間力を身につける。

3 スポーツの振興

スポーツを通して体力の増強を図り、自尊心と他人と協調する精神を高める。

### 【校訓】「自律着実動勉」

#### 【スクール・ポリシー】

- (1) グラデュエーション・ポリシー
  - ・物事全体を見通して、計画で気に行動できる。
  - ・知識と技能を活用して、自ら判断することができる。
  - ・高校生だからできること、高校生でなければできないことを、積極的に実践する。
  - ・ひとのために、汗を流して社会貢献できる。
- (2) カリキュラム・ポリシー
  - ・中等教育で学ぶべき内容を、生徒にしっかりと身につけさせる。特に「学校で学ぶ」ことに主眼を置き、学習内容全般にわたって、全ての教科を広く学習できるように準備する。
  - ・学ぶ楽しさを生徒が味わえるような授業実践をして、難関大学受験も視野に入れさせる。
  - ・1・2学年での類型化は最小限にして、3学年での選択科目で大学受験等に対応させる。
- (3) アドミッション・ポリシー
  - ・授業を大切にして、集中して学習できる。
  - ・課題を見つけ、将来に向けて夢を持ち、学校生活を送る。
  - ・今やらなければならないことを後回しにせず、率先して行動できる。
  - ・思いやりをもち、皆で協働することができる。

本校は、これからの世代を生きぬく逞しい力を生徒に獲得させるため、学力の基礎・基本を確実にする取組を行う。そのための学校経営の柱として、授業を大切にして、意欲的に学ぶ姿勢を生徒に確立させていく。 生徒保護者が、本校入学時に描いている進路の第一志望を実現させるため、教員の授業力を礎として、質の高い教育活動を創造していく。また、部活動を中心とする特別活動は本校の特色でもあり、生徒の自己実現を図るための活動としてより一層の充実を図る。教育目標のひとつである「スポーツの振興」を推進して、本校が目指す生徒が生き生きと活動できる学校づくりを目指す。

また、未だ世界規模で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症に対して、生徒へ学校内外における感染症対策の指導とともに、学校全体で感染症対策の更なる徹底を図る学校運営も推進する。

- (1) 授業を大切にして、生徒の学力を向上させる。
- (2)キャリア教育の計画的実施で、生徒自らが自己の個性・特性を知って自己実現に繋げさせる。
- (3) 部活動と学習活動の両立に全力で臨めるよう、気持ちの切り替えを的確に行える指導をする。

実現へ向けた学校経営の重点課題は、下記のとおりである。

- ① 教職員が学校経営計画を共有して、その実現に努める。
- ② 生徒の学力を定点観測して、学力伸長に向けた必要な取り組みを実践する。
- ③ 教職員が進んで研究・研修に励み、互いに切磋琢磨して授業実践に生かす。
- ④ 教職員と生徒が、ともに人権を尊び、互いを尊重しあう。
- ⑤ 「創造」的な営みとしての特別活動を活性化させる。
- ⑥ 生徒に文化活動・体育活動を体験させることから、みずみずしい感性と積極性を育てる。

### 2 中・長期的目標と方策

### 目標

- (1) 生徒の「わかる」を大切にする授業を実践する。
- (2) 課題発見力や問題解決力、言語表現力を獲得させるため、学力の基礎・基本の充実を図る。
- (3) 生徒や保護者の進路希望を実現させるため、国公立大学及び難関私立大学現役合格者 2 人以上、 GMAR C H 現役合格者 1 0 名以上を目標とする。
- (4) 生徒が文化活動・体育活動に打ち込めるように、生徒の自主的取り組みを支援する。
- (5) いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。
- (6) 問題を抱える生徒の共通理解を図るため、特別支援教育を充実させて、自殺対策にも資する。
- (7) ホームページや学習コンテンツを活用して、学校教育の内容や成果を迅速且つ正確に発信する。
- (8) 生徒の健康の保持・増進と、体力づくりを推進する。
- (9) 経営企画室の学校経営参画を推進する。
- (10) 危機管理体制を構築して、コロナウイルス感染症防止対策等、生徒・教職員の安全を確保する。
- (11) 教職員のライフワーク・バランスを推進する。

### 方策

- (1) 学習課題に応じた、補習・補講・個別指導により、きめ細かな指導を実践する。
- (2) I C T機器の積極的活用や、教材・教具の工夫を行い、双方向型のA L も活用する。
- (3) キャリアガイダンスの充実を図り、生徒の進路目標を明確にさせて、学習意欲を高める。
- (4) 生徒自らに考える機会を多く与えて活動させるとともに、状況はHP等を活用して広報する。
- (5) 生徒アンケートを実施して状況把握を的確に行い、教員間で共有し根絶を図る。
- (6) 生徒支援委員会を定期的に開催して、問題を抱える生徒の指導方針を明確にする。
- (7) ホームページ等を活用して、教育活動に加えて、生徒会・委員会活動等の生徒活動も報告させる。
- (8) 生徒の心身の健全育成を目指し、総務部・生活指導部を中心とした生徒の健康管理と育成を図る。
- (9) 事務職員と教員との円滑な連携を含め、慣習に捉われない柔軟さで学校運営の企画に参画する。
- (10) 感染症対策等を教職員が率先して実施するだけでなく、市域の拠点としての役割も果たす。
- (11) 業務縮減に向け、スクラップアンドビルドの意識付けを日常から行う。

# 3 今年度の取組目標と具体的方策

## (1) 教育活動の目標と方策

# I 学習指導

今年度の取組目標	方 策	時期	担当分掌		
全ての生徒に、基礎学	① 放課後や長期休業期間中に補習・補講を実施して、生徒の学習意欲を高め、学力向上を扶ける。	通年	進路指導部・教科会		
力の定着を図る。	② 小テスト・定期考査・模試の振り返りを行わせ、提出させて確認を行っていくことから、基礎・基本の定着を図る。	通年	科会		
生徒の学習意欲を向	① 生徒が主体的に活動できる協働型·双方向型の授業を、ICT機器の活用等により目指す。オンライン・ハイブリッド授業も推進する。	通年	教科会		
上させるため、授業内 容・方法の工夫を行	② 生徒の理解度を高めるため、習熟度別、少人数授業を他の教科・科目での実施も推進する。	通年	教務部・教科会		
う。	③ 生徒が授業の見通しをつけやすくするため、授業開始時には学習内容を提示するとともに、終了時には学習内容を再度確認させる。	通年	教科会		
課題探求型、問題解決 型の授業や、言語表現	① 教科・科目特性に応じて、言語活動を充実させた授業を行う。	通年	教科会		
能力を伸ばすための 授業を準備する。	② 学習指導案を作成した研究授業を年1回実施するとともに、他の教員の授業見学を年1回行い、授業の改善に生かす。	通年	副校長・教科会		
学習指導内容の校内	① 指導内容を統一するため、定期考査は、統一問題とする。	通年	教科会		
での統一化を図る。	② 模試分析会を実施して、生徒の学力の不足している箇所を把握して、教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。	模試実施月	進路指導部・教科会		

# Ⅱ 進路指導

今年度の取組目標	方   策	時 期	担当分掌		
3年間を見通した系	① 年2回以上個人面談を行なう。三者面談は、学年で統一した様式によ	年2回	進路指導部·学年		
統的、組織的な進路指	り、ホームページでも保護者に周知して年1回以上行なう。	通年	(年) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1		
導をきめ細かく行う。	② 保護者に向けて、外部講師等による進路説明会を開催する。	年1回	進路指導部・学年		
進路相談機能を充実させる。	① 進路指導室にネットワークを整備して常駐する体制を構築する。	通年	進路指導部		
	   ② 保護者に対しての進路相談もできるように配慮する。 	通年	進路指導部		
既卒生の進路動向を	既卒生の進路動向を調査書申請時と卒業証明発行時に把握する。	通年	進路指導部		
把握する。	炒.十工>ソルビロヨッドリ と 即旦目 ヤロドヴ (二十未証 り) 元 : リガー・1 にぼり る。	迎十	(年) 14年 (1)		

今年度の取組目標	方   策	時 期	担当分掌		
進路指導データの蓄	① 校内模試は、進路指導部中心となり、計画実施する。特に3学年の模試実施を検討する。	模試実施月	進路指導部・各学年		
積を行い、教員の共通 理解を図る。	② 模試データを活用して、模試分析会を実施する。模試分析会には、教 科担当と担任が参加し、教科会で改善計画を立てる。	模試実施月	進路指導部·各学年 教科会		
	③ 進路報告会を開催し、学校としての進路指導の継続性を図る。	3月	進路指導部 全教員		
学力向上のため、長期 休業日中の講習の参 加生徒の増加を目指 す。	① 長期休業日に講習期間を設け、各教科で内容を検討して、全員態勢で取り組み、生徒が講習を受けやすい体制を作る。	7·8月	進路指導部 教科会		
	② 午前と午後に同一講座を設定する等、全学年の生徒が講習と部活動を両立しながら参加できる工夫をする。	7・8月	進路指導部 教科会		
	③ 講習の講座内容・日程を2ヶ月前に提示し、学習計画を立てさせる。 ホームページにもUPして、保護者にも周知する。	5~6月	進路指導部 教科会		
	④ 生徒の知的探究心・好奇心に応える教養講習も開講する。	7・8月	進路指導部 教科会		

## Ⅲ 生活指導

今年度の取組目標	方 策	時 其	担当分掌
基本的生活習慣の確	① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。	通年	生活指導部・学年
立に向けた指導を重点的に行う。	② 自転車通学は、被害者、加害者にならない安全指導をする。	通年	生活指導部・学年
安心して生活できる 教育環境を整える。	生徒会を中心として、生徒各自が「SNS東大和ルール」をしっかり と認識して、ソーシャルマナーを身につけた生活ができるようにする。	通年	生活指導部・学年
時間を有効に活用で きるようにさせる。	部活動と学習活動の切替を素早くさせ、隙間時間を上手に使わせる。	通年	生活指導部・学年
著作権意識を高める。	著作権・商標権等を尊重する意識の醸成と、許諾の手続きを徹底させる。	通年	生活指導部・学年
東大和生として一体感と誇りを持たせ、学	① 企画室職員と教員が連携して、生徒会会計にも会計処理を関与させる。	通年	経営企画室 生徒会
校生活を充実させる。	② 学校行事の時期や実施方法について、関連部署で見直しを行う。	通年	学年·分掌
	① 部活動の活動について、東京都教育委員会の指示を遵守して決定する。	4月	生活指導部
部活動を適正に運営	② 年間計画・目標、指導方針、指導内容、指導方法を策定して保護者にも 周知する。週予定も生徒・保護者に事前に提示する。	通年	管理職・生活指導部
できるように配慮す	③ 部活動保護者会を開催し、部顧問と保護者の連携を図る。	通年	各部活動
<b>ే</b> .	④ 平日の部活動終了後には、速やかな下校を指導する。活動延長の際は、 職員室で把握できるようにして、徹底した下校指導をする。	通年	生活指導部 顧問
	⑤ 定期考査前の部活動は原則休止とし、学習時間を十分に確保する。	通年	生活指導部

## Ⅳ 環境美化·健康増進

今年度の取組目標	方 策	時 期	担当分掌
新型コロナウイルス 感染症防止対策を徹	① 生徒の健康観察を確実に行い、感染防止対策をする。	通年	全校体制
底する。	② 教室や特別教室の消毒等を確実に行う。	通年	全校体制
学校保健計画を策定	① 学校保健計画を策定して、学校保健委員会を年2回開催する。	4・3月	学校保健委員会
し、健康の保持増進の 推進に努める。	② 病院搬送が必要な生徒は、PTA支援を活用して、迅速に行う。	通年	保健部·副校長
スポーツに親しむ態度を育成し、体力向上の取組を実施する。	① 授業・特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成するため、球技大会・体育大会を実施する。	5・6月	生活粗銅部保健体育科
	② 教科間連携や部活動指導により充実する。オリンピック・パラリンピック委員会を中心として、生徒にできる取組をさせる。	通年	オリンピック・パラ リンピック委員会
体罰・いじめの防止を 徹底する。	「学校いじめ対策委員会」による体罰根絶研修を実施して、いじめや暴 力のない活動を推進する。		
生徒を支援して、生	① 教育相談に関する、保護者対象相談会を開催する。	11月	総務部
徒・保護者の相談機能を充実する。	② 生徒支援委員会で、課題ある生徒の共通認識と支援を継続する。	通年	生徒支援委員会
ゴミの減量化と、計画	① ゴミの削減・分別・処理方法を具体的に示し、資料を掲示する。	通年	総務部
的な廃棄を実施する。	② ゴミの減量化とリサイクルに努め、廃棄は計画的に実施する。	通年	総務部経営企画室

# V 募集·広報活動·地域交流活動

今年度の取組目標	方   策	時期	担当分掌			
3 <del>22 14 0 28 4 7m</del>	① 推薦に基づく選抜は、受検生の思考力をみる作文問題を作成するとともに、点検を確実に行う。	7~1月	入選委員会			
入学選抜の業務を確 実に行う。	② 採点業務の組織的な対応、複数での点検等で、業務を確実に実施する。	11~3月	教務部 入選委員会			
	③ 推薦・学力ともに要項作成は十分余裕を持って行い、教員に周知する	12・1月	教務部 入選委員会			
学校の情報を外部へ	① 教育活動のHP等を使っての情報発信は、即時性をもって実施する。	通年	情報管理委員会			
発信する。	② 部活動等の情報発信について、生徒も参画するようにする。	通年	生活指導部			
学校説明会や授業公	① 学校見学会を常設するとともに、上級学校訪問も受け入れる。	7・8月	総務部			
開を活用し、中学生に	② 広報資料は、1年生徒に中学校へ持参させる。	7・8月	総務部			
東大和高等学校のよった。	③ 授業公開・学校説明会は土曜日を使って、全校体制で年2回実施するとともに、都立学校等合同説明会に参加する。(会場:立川高等学校)	10・11 月	総務部			

### VI 組織体制·学校運営

今年度の取組目標		時 期	担当分掌		
企画調整会議の円滑	① 会議資料は、A版で作成する。	通年	全分掌·学年		
な実施を行う。	② 会議前日までには、資料を作成して、管理職に確認を受ける。	通年	全分掌 · 学年		
	① 就学支援金制度を、適正かつ迅速に事務処理を行う。	4~6月	経営企画室		
授業料徴収事務は、適切に実施する。	② 授業料未納者への督促は、迅速に適切な実施をする。	通年	経営企画室		
	③ 個人情報の取扱には、鍵のかかる場所に保管して厳格に行う。	通年	全職員		
	① 部費は、銀行口座で一元管理して、各月・学期毎に適正執行する。	通年	管理職·各部活動		
部活動に係る服務意識を向上させ、服務事	② 大会等で学校施設を使用する際は、使用届を起案決定する。	通年	管理職·各部活動		
故根絶を目指す。	③ 部活動の合宿費は、振込による通帳管理を徹底する。	通年	管理職·各部活動		
	④ PTA・同窓会による奨励金は、用途を明確にして適正執行を行う。	通年	管理職·各部活動		
	① 司書と司書教諭の連携により図書選定を行い、計画購入する。	通年	司書・司書教諭・図書・総務部		
図書館の利用率を高	② 書架整理・蔵書点検・未返却者督促状などによる環境整備を行う。	通年	司書・司書教諭		
め、読書活動を推進する。	③ 書評合戦(ビブリオバトル)の校内予選を実施する。	9月	国語科·司書·司書教諭		
	④ 読書活動を読書月間で推奨し、読書感想文コンクールを実施する。	7・8月	国語科 総務部 司書·司書教諭		
予算執行状況の管理	① 年間授業計画を11月初旬までに策定して、それに基づいた予算作成 を行う。年間授業計画は、年度当初に全生徒に周知する。	4・11月	教科・教務部 予算編成会議		
をしっかり行い、有効	② 予算進捗状況を四半期ごとに確認して、未執行のものは、計画変更を 指示する。契約落差金を補正予算の財源として、有効活用する。	通年	予算調整会議		
活用する。	③ 予算有効活用のため、センター執行率60%を目指す。	通年	経営企画室		
防災等の危機管理体	① 避難訓練を年4回実施し、生徒・職員・来校者の人員確認を徹底する。	8月	危機管理委員		
制の整備に努める。	② 校内実施の防災訓練並びに防災活動支援隊による活動を推進する。	通年	図書・総務部		
施設の有効利用を進める。	① 授業スペースを確保し、既存施設を最大限有効活用するため、校内施設利 用状況の把握・今後の利用への検討・計画立案・実施する。	通年	教育課程委員会 教務部		
	② 安全上問題のある不具合については、学校経営支援センター経営支援 室と連携して早急に改善を図る。	通年	施設整備委員会経営企画室		

## (2) 重点目標と数値目標

今年度の重点目標	数	値	動向	ع (	: 具	体	的	な	数	値	目	標		
進学実績を向上させる。														
	31 年度 2 年度 3 年度						4年度							
	2人		4人	•	2	人			$\Rightarrow$	4 人		<del>ل</del>		
	○GMARCH現役合格者数													
	31 年度		2年	吏	3 5	F度					4年	叓		
	3人		8 /		2 2	2人			$\Rightarrow$	▶ 10人				
	○センター試験受験者数													
	31 年度		2年	度	3:	年度					4年	芰		
	171 人		160	人	22	25人			$\Rightarrow$		160	人		
長期休業期間中の講習を充実させる。	○講座開請	数												
	31 年度		2年	复	3年	度					4年	芰		
	41 講座		29 講	莝	37	講座			$\Rightarrow$		50 郬	<b>基座</b>		
関東大会・全国大会出場部活動	○部活動数	Ż												
	31 年度		2年	ŧ	3 £	丰度					4年	芰		
	7部		4部	3	5	部			$\Rightarrow$		5 剖	3		
学校広報を強化して、募集対策を計画的に	31 年度		2 年度	Ę	3年	度					4年	度		
実施する.     学校説明会来校者数	1642 組		380 組	1	103	0組			<b>⇒</b> >		1200	組		
	2年度入記	式	3年度2	过	4 年度	<b>建入</b> 註	t			5年度入試				
○推薦に基づく入学者選抜倍率	男 4.46 倍	<u> </u>	男 4.25	倍	男 4.	39 倍	Ĭ		⇒>	身	月4.0	0倍		
	女 3.50 倍	<u> </u>	女 3.26	倍	女 3.	23 倍	ī			3	<b>ጟ</b> 3. 0	0倍		
	2年度入記	式	3 年度	斌	4年度	注入記	t			5	年度	入試		
○学力検査に基づく入学者選抜倍率	男 1.50 倍	<u> </u>	男 1.22	倍	男1.	22 倍	Ē		⇒>	9	男1.3	0倍		
	女 1.36 倍	<u> </u>	女1.12	倍	女1.	13 倍	Ē			3	<u></u> 1. 2	0倍		
生徒支援委員会による生徒に関する共	○生徒支援	委員	員会実施	回数	(木曜	日4月	邿限	目)						
通理解を図る。	31 年度		2年	度	3 4	丰度					4年	度		
	17 回		14 🖪	1	19	回			$\Rightarrow$		20 回	1		
学校評価アンケートにおける学校満足	○学習活動における満足度													
度を向上させる。	31 年度		2年	度	3 4	年度					4年	芰		
	生徒 84.1%	6	生徒 83.	6%	生徒8	37.5%	6		⇒	4	上徒	85%		
	保護者88.4%	5	保護者84	.3%	保護者	86.0%				伊	<b>未護者</b>	t 85 %		
	○特別活動における満足度													
	31 年度		2年	度	3 4	年度					4年	芰		
	生徒 86.5%	6	生徒 84.	5%	生徒9	91.8%	6		⇒	4	上徒	8 5%		
	保護者 84.3%	5	保護者 83	.7%	保護者	89.6%				伊	<b></b>	f 85%		